



No One Left Behind.

長谷川 デクラン

バンコクに降り立つ。前日に私の好きな K-Pop グループがコンサートを行ったばかりのこの地に入れ違いで入国した私を待っていたのは、蒸し暑く重たい熱気とオートバイなどの騒音、ホテル横のバラック小屋に住んでいると思われるボサボサ髪のホームレスの姿。K-Pop 好きの若者がいる一方で、JICA 協力のもとインフラの整備も進行中で貧困とも隣り合わせのカオスなバンコク。これがアジアの中進国の現状かといきなりの洗礼を受けた。

最も感銘を受けたのは APCD (アジア太平洋障がい者センター) の視察であった。障がい者というと一般的には社会から疎外されているイメージであったが、そこにいた人々は誰もが楽しそうに、生き生きと過ごしていた。あまりに楽しそうだったので、私も一緒にそこで働きたいという思いにさえ駆られた。障がい者一人一人の状況や環境に応じて、ニーズに合わせた支援をしていくことが可能なら、きっと誰一人取り残されずに済む。障がいをマイナスではなく個性として尊重し、個性を生かして皆が偏見なく共存できる社会を作りたい。

私は将来医療関係の仕事に就きたいと考えているため、SDGs の 3「すべての人に健康と福祉を」は特に気になる項目である。直接人と関わる取り組みだからこそ、オーダーメイドじゃなきゃダメなんだろうと思う。一人一人に合わせて、ゆっくりとお互いに向き合い話し合える環境作りを、心に留めていきたいと思う。No One Left Behind.